

FICoN第6回ウェブ検討会 (R5.2.27)

○ 森林ニュービジネスの可能性を探る

<講演>

「樹木香り成分の特徴と利用の可能性」 森林総研 大平辰朗氏

「トドマツ枝葉の産業利用の現状とその可能性」 日本かおり研究所(株) 金子俊彦氏

「地域の森林発の新素材「改質リグニン」のポテンシャル」 森林総研 山田竜彦氏

「木材チップからのパルプ製造とセルロースナノファイバーとしての利用」 森林総研 下川知子氏

「国産材需要、林業活性化、山村振興を目指した木から酒を造る新産業創出への取り組み」

森林総研 大塚祐一郎氏

<総合討論> (司会) 大平辰朗氏、(パネリスト) 上記講師の皆様

【ポイント】

- ・森林資源を考えるとき、木材や枝葉などに含まれる成分を新たな収入源として見なすことが重要。
- ・枝葉に含まれる「香り成分」には、抗菌、防虫、空気浄化、リラックス効果等が得られるものがある。トドマツ枝葉から成分を取り出した「クリアフォレスト」については、多くの商品展開がなされている。
- ・地域のスギを原料とする新素材「改質リグニン」は、熱に強く、加工しやすいため、様々な先端材料の素材として技術開発が進んでいる。先日、製造実証プラントもできたところ。
- ・地域の木材を原料とするチップから「セルロースナノファイバーを」一貫製造することができるようになった。塗料に配合することで性能を高めた商品も市販されている。
- ・「木の酒」は極微細まで粉碎した木材をそのまま酵素分解し、発酵させる技術により開発された。樹木が固定した炭素をお酒という高付加価値なものに変換。各山村地域での製品化を目指す。
- ・これらの技術が有機的に連携し、森林資源をより有効に利活用する取組を進めたい。